

保護者様

広島市立安西中学校
校長 遠藤 秋実

「基礎・基本」定着状況調査の結果について

初秋の候、皆様にはますますご健勝のことと思います。

さて、6月14日に2学年の生徒を対象に実施しました標記の調査の結果が次のようになりましたのでお知らせします。今後とも学力がさらに定着するよう取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。なお、生徒に当日の問題と解答用紙及び正答例を返却しておりますので、参考にしてください。

1 国語

(1) 全体の通過率

県平均 74.4% (市平均 72.6%) 安西中学校平均 71.0%

(2) 通過率の分析と傾向

読むことについては、県平均よりも高かったが、聞くこと、書くこと、言語事項については、県平均を下回った。特に、書くことについては、文章構成を考えるという項目が大幅に下回っている。

- ・「聞くこと」事実と意見、全体と部分に注意して聞くことができていない生徒が多い。
- ・「書くこと」文章構成を考えることが苦手な生徒が多い。
- ・「読むこと」語句の意味を正確に捉えることは良くできている。あとの項目についても、県平均とほぼ同じ通過率であった。
- ・「言語事項」県平均とほぼ同じ程度の通過率であるが、古典の通過率が低い。

(3) 今後の取組の重点や配慮事項

- (聞くこと) 全体と部分、事実と意見の関係に注意して聞くことができるようにするよう、聞くテストを定期的に行うなどし、注意深く聞く習慣を身に付けさせる。
- (書くこと) 自分の考えを論理立てて文章に書くことができるようにするために、パターン化された文章を書く練習から始めるなど、論理立てた文章を書く練習をさせる。
- (言語事項) 言語事項に関する知識を定着させるために、漢字以外の言語事項についても、繰り返し学習が出来るように、小テストなどを行う。

2 数学

(1) 全体の通過率

県平均 69.0% (市平均 67.3%) 安西中学校平均 66.4%

(2) 通過率の分析と傾向

各分野とも、2～3ポイント県平均を下回っている。

- ・「数と式」 正の数・負の数の計算に関しては非常によくできているが、分数の計算や一次方程式での計算ミスが少し目立つ。
- ・「図形」 空間における直線の位置関係は理解しているが、直角の位置関係の理解が不十分である。また、おうぎ形の弧の長さを求める問題の通過率が低い。

- ・「数量関係」他の2つの領域と比べて、本校だけでなく県全体でも通過率がやや低くなっている。比例の式の理解が不十分である。

(3) 今後の取組の重点や配慮事項

- ・「数と式」 方程式、累乗の計算については基本的な問題から計算ミスをしやしいところを十分注意しながら確認し、定期テスト等で再確認する。
- ・「図形」 図形の問題については冬休みの課題を直して復習を行う。
- ・「数量関係」 比例については一次関数の学習の中で再度確認し、比例の意味を再度捉えさせる。

3 英語

(1) 全体の通過率

県平均 73.4% (市平均 71.8%) 安西中学校平均 71.6%

(2) 通過率の分析と傾向

聞くことにおいては、県平均を上回った。後の領域については県平均を若干下回っている。

- ・「聞くこと」 全体的に良くできている。
- ・「読むこと」 会話の流れの読みとること、会話文を組み立てることは良くできているが、人称代名詞、疑問詞の知識などが若干弱い。
- ・「書くこと」 やや苦手な生徒が多いようである。場面に応じて自分で簡単な英文を作成する問題では、本校だけでなく県全体でも通過率が半分以下とかなり低い問題もあった。
- ・「話すこと」 実技による聞き取り調査で行った領域で、ほぼ適切に応答できているが、What time～?に対する応答が低い。

(3) 今後の取組の重点や配慮事項

- ・自主学習ノートの提出、家庭学習を定着させ、重要表現などを身につけさせる。
- ・家庭でもそれぞれが練習できるように、授業での音読練習を充実させる。
- ・互いが教え励ましあって取り組めるような人間関係を築く。
- ・家庭学習が学力向上につながることを、ねばり強く指導していく。またその成果を確かめるための小テストの回数を増やす。

4 生活と学習に関する意識・実態

(1) 実態の分析

- ・努力すればたいていのことはできている生徒が84%、物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある生徒が91.7%など、県平均を上回っており、自己効力感を持っている生徒が多い。
- ・将来の夢や目標を持っている生徒が全体の4分の3を超えている。また、将来の夢がかなうと思っている生徒は6割を超えている。
- ・自分の良さを認められていると考えている生徒が半分以下である。
- ・自分で勉強の計画を立てている生徒が30%をきっている。

(2) 今後の具体的な取組の内容

- ・学年担当執行委員を中心に、学級・学年の取り組みを行うことで、互いに認め合える集団を育成する。
- ・キャリア教育、職場体験学習を通して、自己肯定感を育てる。
- ・担任と教科担任の連携を密にし、個々の学習状況を把握する。
- ・計画の立て方を学ばせ、家庭学習の習慣化を図る。